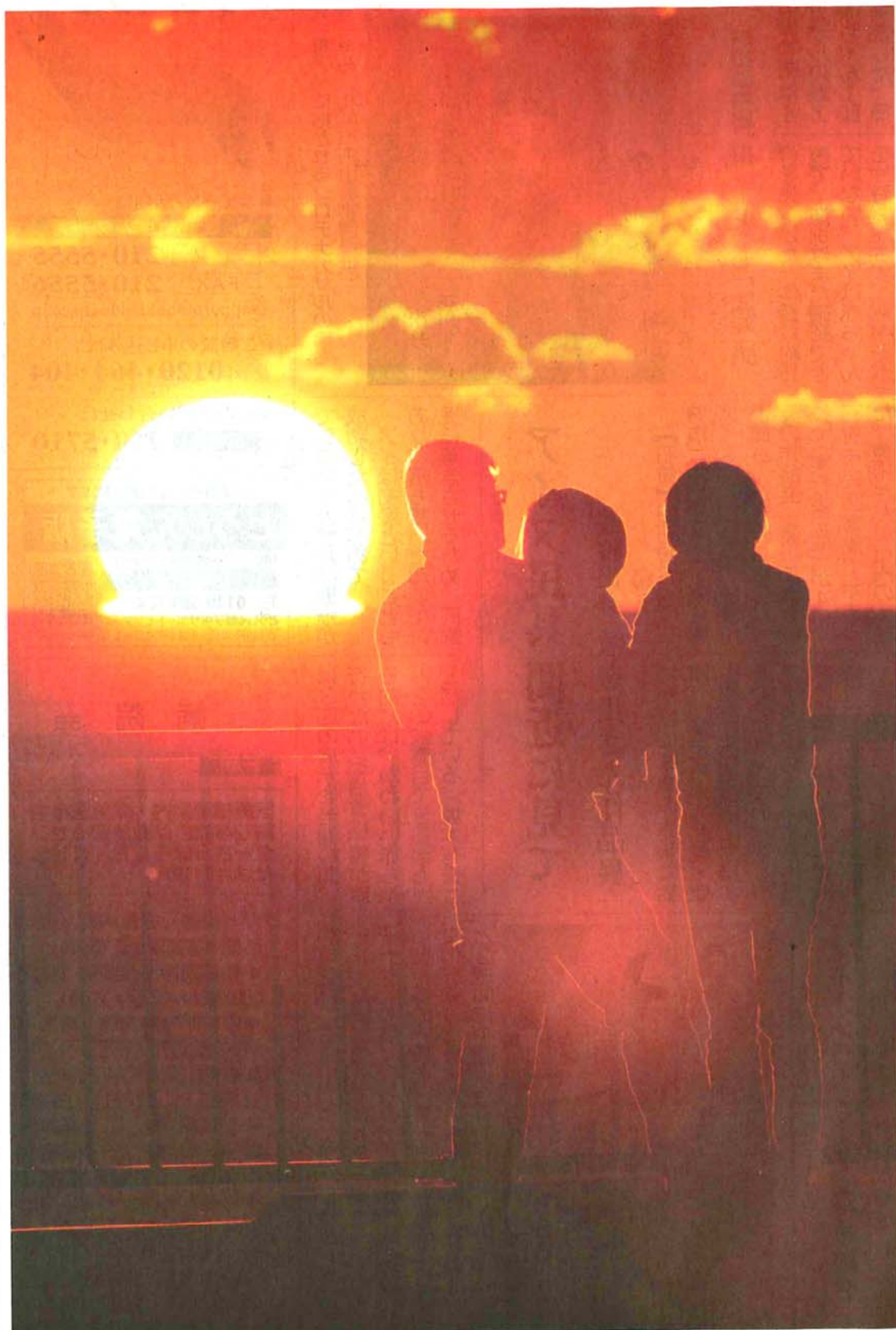


今週のテーマ

日本海の夕日に癒やされる

石狩市



水平線に溶けるように沈む夕日。「また明日ね」。家族連れが夕日に向かって声を掛けていた=9月19日午後5時35分、石狩市厚田区のあいロード夕日の丘観光案内所(藤井泰生撮影)

水平線の赤心も染める

金色に輝く光が、ゆっくりと水平線に落ちていく。視界を遮るものは何もない。雄大な空と日本海はあかね色に染まり、辺りは次第に闇に包まれていく。石狩湾に沈む夕日を眺めるのは、一日の疲れが吹き飛ぶ最高の癒やしのひとときだ。夕日といえば秋。次の休日は石狩まで足を延ばしてみませんか。



札幌中心部から石狩市厚田区へは車で約1時間、浜益区へは1時間半。バスは北海道中央バスの厚田行きが1日6本ある。天海珈琲の営業は4月1日～11月30日の午前10時～午後6時。水、木定休。問い合わせは☎0133・77・3008へ。厚田市街そばの国道沿いには10月30日まで、あいロード夕日の丘観光案内所が開設されている。問い合わせは☎0133・78・2000へ。現在の厚田の日は午後5時すぎ。厚田から眺める夕日は、徐々に積丹半島の向こうに沈むようになる。水平線に沈む姿を見たいなら、さらに北の浜益区まで足を運ぶといい。

晴天の日よりも、雲が少しあるかすみがかかった日の夕日。佐々木さんによると、秋ならば厚田ビーチセンター付近が絵になるといふ。秋サケを狙い、真っ赤に染まる空に向かってさおを投げ、釣り人のシルエットを入れるのがポイントだ。石狩川河口にある道内最古の灯台「石狩灯台」をシルエットに入れて撮る構図も美しい。石狩川対岸の八幡町から500m前後の望遠レンズで、巨大な落陽と石狩灯台のシルエットを捉えると、哀愁を漂わせる作品に仕上がる。



案内人 報道センター 成田智加

案内人 報道センター 成田智加

風景が創作の源

8月下旬から天候不順が続き、この日を待ち焦がれていた。9月19日の夕、石狩市厚田区の「あいロード夕日の丘観光案内所」から海を見つめていた。真っ赤に焼けた鉄の塊のような巨大な太陽が、じわじわと海に溶けるように沈んでいく。水平線の向こうに消え、厚田の風景に心引かれていた。9月19日の夕、石狩市厚田区の「あいロード夕日の丘観光案内所」から海を見つめていた。真っ赤に焼けた鉄の塊のような巨大な太陽が、じわじわと海に溶けるように沈んでいく。水平線の向こうに消え、厚田の風景に心引かれていた。

11年前、石狩湾を一望できるこの地に3階建ての住居兼アトリエを構えた。6年前からは2階でカフェ「天海珈琲」を営んでいる。藤原さんにとって夕日は、創作活動のインスピレーションをもたらす大切な素材だ。「雲の切れ間から差し神々しいライトシャワーは、天使が舞い降りたかのように。光は紫やピンクなどさまざまな色に変化し、見るたびに新鮮な驚きがある。心が洗われますね」



大きな窓から日本海を見渡せる天海珈琲の店内と店主の藤原さん。12月からは冬季休業に入り、創作に専念する

方がきれいに撮る夕日を撮り続けたい。なる佐々木さん。海の波は荒々し夕日によく映える。撮影日和です。

室蘭の鉄

次回のテーマ

おでかけ情報			石狩編		
1月	11月	10月	1月	11月	10月
27	25	19	18	1	29
			15	10	9



一度食べたならこの酸っぱさはくせ

善盛園の手作り梅干し

梅本来の味を楽しめるとあって「や

